



学校教育の重点

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども

京都市の学校教育

京都は1200年を超える長い歴史の中に培われた伝統と文化を大切にし、自由で先駆的な気風を育みながら、個性豊かで活力に満ちたまちを築いてきた。「まちづくりは人づくりから」と、町衆（市民）が私財を出し合い、明治2年に日本で初めて、64の地域制小学校（番組小学校）を設立したのも京都である。

このような歴史と伝統を土台に、本市では「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という理念のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育改革を推進し、大きな成果を挙げてきた。

社会の急速なグローバル化や情報化、価値観の多様化、技術革新が絶え間なく起こる知識基盤社会の到来など、地球規模で社会が激しく変化する今日においてこそ、そのことが強く意識されなければならない。

人間形成の理想を求めて、子どものよさや可能性をいかに引き出し、どのような子どもに育てるか、また、そのために学校は何をなすべきか、いつの時代にあってもこれらを追求し、実現することが学校教育の使命である。

また、教育の根柢は、「自ら主体的に学ぶ」ということである。自ら学ぶ意欲と力を持ち、学んだことを生かして、課題を克服し、現状を変えていくことができる子どもを育てるためには、教職員はもとよりすべての大人が生涯にわたり学び続け、子どもを共に育て、子どもと共に育つという姿を堅持し、個と集団、社会との関わりを重視した教育の充実、深化が求められている。

こうした本市教育の理念や伝統のもと、教育に寄せる市民の期待と信頼に応え、教育実践を進めるために、京都市が目指す「子ども像」「教職員像」「学校像」を掲げる。

学校教育目標

「目標に向かって、進んで学び、生き生きと活動する子どもの育成」
～意欲的に、主体的に、友だちとともに～

めざす子ども像

～よりよい自分をめざしてがんばる子～

- しっかり話を聞き、よく考え、進んで学習する子ども
- 仲よく助け合い、思いやりのある子ども
- 人や自然に優しい目と心を注ぐ感性豊かな子ども
- たくましい心と体でくじけずチャレンジする子ども

確かな学力 *かしこく*

- * しっかりと考える子
- * 思いや考えを表現できる子
- * よりよく問題を解決できる子

豊かな心 *やさしく*

- * 思いやりのある子
- * 豊かに想像できる子
- * 人権を大切にする子
- * 友だちを大切にする子

健やかな体 *けんきよく*

- * よく遊ぶ子
- * 心も体も元気な子
- * 早寝早起きの出来る子

めざす学校像 子ども・保護者・地域に信頼される 楽しい学校

- 一人一人が輝き、生き生きと活動する学校
- 人間的温かさと教育実践の厳しさがみなぎっている学校
- 清潔で美しい学校
- 家庭や地域と結ばれた学校

めざす教職員像 人間性豊かで子どもに力をつける教師

- 一人一人が「わかる・できる」授業づくりを目指す教職員
- 一人一人が楽しく安心して過ごせる学校・学級づくりに取り組む教職員
- 心身共に健康で豊かな心を持つ教職員

求める家庭像 人間としての心やマナーが育つ家庭

- 基本的な生活習慣が身に付く家庭
- 家族の一員として、助け合いの心が育つ家庭
- 社会の一員として、マナーや奉仕する心が育つ家庭